



キャンパス・コラム

イスラームと日本人(続)

昨年7月号にこのコラムに、「イスラームに対する理解を深めたいものだ」と書いたが、それから、2ヵ月半ほどたった9月11日に、ニューヨークの世界貿易センター・ビルへの航空機による自爆テロ事件が起きた。この事件が、イスラーム過激派の犯行とされたことで、イスラームのイメージを著しく損なったことはいうまでもない。事件の当事国のアメリカでは、ムスリム(イスラーム教徒)に対する暴力によって死者まで出る騒ぎになった。

日本では、この事件以降、テレビや新聞で、連日のようにイスラーム関連の報道が続いた。需要を当て込んだのか、イスラームに関する本も次々に「緊急出版」されている。こうした本が、事件後しばらく売り上げの上位を占めた書店もあり、中央大学生協の本屋にもイスラーム・コーナーができた。週刊誌や月刊誌のなかには、イスラーム特集を組んだところも少なくない。それでは、イスラームに対する理解は進

んだのであろうか。


日本の場合、アメリカほど状況は悪くなかったものの、イスラームに対する偏見に基づくと思われる出来事がやはりいろいろと起きている。私の身近なところでは、7月のコラムでも言及した、日本最大のイスラーム系団体の理事で、総合政策学部の講師をしていただいているインド人ムスリムの先生が、この事件のあと、日課にしていた自宅近くの公園での朝の散歩をやめた。事件後、公園で会う日本人に「白い目」で見られるのに、耐えられなくなったからだそう。また、テレビや新聞では報じられていないが、六本木の飲食店で、米兵がたまたま居合わせたパキスタン人を、何の理由もなく殴って大怪我をさせるというような暴力沙汰まで起きている。

その後、アメリカによるアフガニスタン侵攻、東京でのアフガニスタン復興支援会議、と話題性のある出来事が続いたが、今は「イスラーム・ブーム」も終息したように思える。10年ほど前の、湾岸危機とそれに続く湾岸戦争のときに、イスラームに対する理解は進まず偏見だけが助長されたことを、思い起こさずにはいられない。

広報委員 清水芳見(総合政策学部助教授)

Hakumonちゅうおうが季刊誌になります。▼従来、年9回発行されておりました在学生向け情報誌「Hakumonちゅうおう」は、今年度より年4回発行の季刊誌(4月、7月、12月、3月)として発行されることとなりました。これまでに在学生への広報課からのお知らせについては、当冊子の他にホームページがありましたが、今後は、これらにメディアに加え、4月から本格的に稼動する「電子掲示板」(左ページ参照)が活用されます。ご期待ください。▼時代のスピードは、メディアの変革を生み、それを操る我々に大きな意識改革をもたらしました。今後もしろいろなメディアのそれぞれの特徴を生かしながら「より楽しく」、「より新鮮な」、そして「より正確な」情報を伝えるとともに、読みこたえのある記事を掲載していきたいと思っておりますので、学生の皆さんも、いろいろな情報をどしどし提供してください。よろしくお願いいたします。



		2002・春季号(第174号) 2002年(平成14年)4月1日発行
発行 中央大学広報委員会 〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1	<編集担当> 広報課 ☎0426-74-2146 印刷 泰成印刷株式会社 〒130-0026 東京都墨田区両国3-1-12 電話 03-3631-8141	